

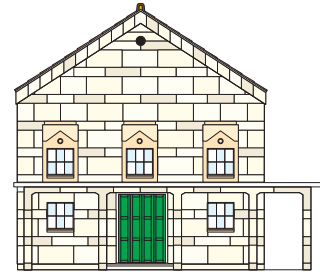
Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2018-09-01

# APM news 197

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233

第41回美術館大学 5月12日(土)pm3:00~pm4:30 / 参加者:42名 / 講師:秋山孝

### 「秋山孝の神秘4『印刷すること』『手描きすること』について1」



館長・秋山孝のポスター作品表現の秘密を解き明かすことを研究目的としているシリーズ「秋山孝の神秘展」も4回目となった。今回のテーマは「『印刷すること』『手描きすること』」だ。現在の秋山の作品は、ポスターや書籍など「印刷」を経て完成形となるものが中心だが、かつては画家を志し油絵など手で描いた絵画作品を創作していた。その画風は、現在の作品とは大きく異なり、同一人物が創作した作品なのかと驚く。では、なぜ秋山は自身の創作活動を「印刷」という手法にシフトしていったのだろうか。美術館大学では、その謎について秋山自身が解説した。例の如くこの研究は秋山が影響を受けて来た過去の表現を振り返ることから始まる。

#### 【印刷すること-ポスターの魅力/1960年代音楽と大判印刷屋メディア】

1960年代、秋山孝学生時代-

アメリカやイギリスを中心として若者たちによる新たな文化のムーブメントが起こっていた。彼らは反戦や人種差別などの社会への不満や、新たな生き方・自己表現の手段として、ファッションや音楽を生み出し、その流れは大きく瞬間に世界を飲み込んでいった。日本も然りである。日本は高度経済成長の最盛期。エネルギーに溢れ、日本の生活も変化し、海外からのカルチャーがどんどんと入ってくる中、それは秋山青年にも大きな影響を与えた。

ビートルズを筆頭に、ローリング・ストーンズ、ボブ・ディランなどの音楽が世界的に大ブームを起こした。音楽は言葉の違う異国の人間でも共感できる強いメッセージ性を持つ。その音楽のメッセージをさらに強めたのが、グラフィックであった。彼らのポートレートやポスター、レコードジャケットは、それまでにはなかった最新の印刷技術を巧みに使用された表現技法であり、新鮮でかつよく、美術を学ぶ秋山青年の心をガッシリと掴んだ。それは、彼に「もはや美術大学の教授から学ぶものはない」と思わせるほどであった。それまで秋山は、油絵など絵筆で描く表現を研究していたが、これらの新たな技法を知ったことで彼の考え方は大きく変わった。「印刷とは何か。」「色を塗るということはどういうことか。」という疑問をここで持ったことが分岐点となったと秋山は自身を振り返る。

秋山に影響を与えた表現者の代表格にいたのがミルトン・グレイザー (1926-) だ。ロゴ「I ♥ NY」を作成した人物だ。このデザインは、紙のみならずあらゆる媒体に印刷され、一目で伝わるコミュニケーションの速さを持ち、今なお世界的に有名である。また、アンダーグラウンド・コミック運動の創始者ロバート・クラム (1943-) の描くイラストレーションにも大きな衝撃を受けた。彼が手掛けたコミック誌「ミスターナチュラル」は秋山の大事なコレクションの1つである。(たかだみつみ・APM学芸員)

【▶次号へつづく】